

2012年1月1日から2019年3月31日までに
当院の先端近視センターで近視性牽引黄斑症に対し硝子体手術を受けられた方へ

研究協力をお願い

当院では「近視性牽引黄斑症に対する硝子体手術術後経過の解析」という研究を実施しております。この研究は、過去の診療録のみを用いて行うというやり方をとるため、直接の同意は頂けず、この掲示などによる患者さんへのお知らせをもってご通院中の方からの同意を頂いたものとして実施されます。研究の趣旨をご理解頂き、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。研究へのご参加をご希望なされない場合、また研究に関するご質問がある場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。

研究課題名：近視性牽引黄斑症に対する硝子体手術術後経過の解析
承認番号：M2023-284

研究責任者：大野京子
東京科学大学病院 眼科 教授
研究期間：研究実施許可日～2027年3月31日まで

(1) 研究の概要について

病的近視の失明原因は、強度の近視によって生じた眼底や視神経における種々の合併病変によるものです。その特殊性と希少性から、病的近視眼の眼底変化については解明されていないことが多く、新たな事実の発見が病態の解明に繋がる可能性があります。本研究は、重度の視機能低下を引き起こす重大な合併症である近視性牽引黄斑症の術後経過について解析しようとするものです。眼軸長の伸長に伴い黄斑に牽引力が働くことで、黄斑の構造変化をもたらす本症は、病期に応じて積極的に外科的治療が行われています。当院でも多くの手術が行われおり、この診療過程で得られた情報をもとに解析を行います。

(2) 研究の意義・目的について

近視性牽引黄斑症の術後経過を解析し、治療成績の向上を目指すこと。

(3) 研究の方法について

2012年1月1日から2019年3月31日までに当院の先端近視センターで近視性牽引黄斑症に対し硝子体手術を受けられた方を対象とし、視力・眼軸長・屈折・眼底写真および手術記録など診療録に残されたデータをさかのぼって解析します。対象者となるかたに追加の検査などはございません。

(4) 試料等の保管と、他の研究への利用について

データは、眼科医局内のコンピュータに実施責任者（大野京子）の管理の元、内容発表後10年間保管されます。他の研究への二次利用は行いません。

(5) 研究協力の任意性と撤回の自由について

研究への参加は自由意思であり、ご自身のデータが研究に使用されることに同意されない場合は遠慮なく申し出てください。その場合も責任を持って診療が行われ、不利益を被ることは一切ありません。

(6) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報を直接同定できるような情報は使用されません。研究の発表時にも個人情報は使用されません。

(7) 研究成果の公表について

この研究成果は学術論文として公表される予定です。

(8) 費用について

この研究は大学の運営費を用いて行われます。この研究への参加謝礼はありません。また研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はなく、このことは本学利益相反マネジメント委員会において

承認を受けております。

(9) 問い合わせなどの連絡先

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45

東京科学大学病院 眼科 教授 大野 京子 (研究責任者)

電話 : 03-5803-5302 (ダイヤルイン) 9 : 00-17 : 30

苦情窓口 : 東京科学大学 研究推進部 研究基盤推進課 生命倫理グループ

電話 : 03-5803-4547 (対応可能時間帯 : 平日 9 : 00~17 : 00)